

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:井上 朋美 所属:福岡市立福岡中央特別支援学校 記録日:平成28年 2月 26日
キーワード:知的障害を伴う自閉症/社会生活/ことばの意味を理解する

【対象生徒の情報】

・学年

中学部 2年 男子

・障がい名

知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

○ひらがな、カタカナ、小学校1年生程度の漢字の読み書きはできる。(日常生活の中でよく使う言葉については、小学校1年生以上の読み書きもできるものがある。)

言葉と実物が繋がっていないものが多いため、語彙が少ない。

○「行くこと」や「行くべき場所」などを理解していないことが多く、自分から行動できないことが多い。

○言葉と物が繋がっている場合でも、口頭の指示に応じて行動に移すことができにくい、文字でのやりとりは口頭と同じ内容を伝えても、読んで理解をして行動に移すことができる。(例:口頭で「体育館に行きます」と伝える⇒行くことができず、他の場所へ行く。文字で「体育館に行きます」と書いて提示⇒きちんと行くことができる。)

○言葉と意味が繋がっていないため、質問されたことに返答することができない。

【活動目的】

・当初のねらい

○言葉の意味を理解して、自主的に行動できる事を増やす。

○質問に答えて、自分の状況を伝えることができる。

・実施期間

平成27年 6月～平成28年2月末

・実施者

井上 朋美 (研究採択者本人)

・実施者と対象生徒の関係

担任

【活動内容と対象生徒の変化】

・対象生徒の事前の状況

- コミュニケーション面では、話しかけられたことに対してオウム返しで答えることが多く、会話を行うことが難しい。
- ことばでのやりとりは理解することが難しく、口頭で指示を出しても行動に移すことができにくい。文字でのやりとりでは口頭と同じ内容を伝えても読んで理解をして行動に移すことができる。口頭での指示や問い掛けに対して、分からなかった時にはイライラしはじめ、頭を叩くなど自傷行為を行うことが時々ある。その自傷行為は分からなさや、理解できないながらも行動するが、間違った行動であるため止められ、なぜ止められたか分からない戸惑いやイライラからくるものだと考える。
- 移動の際、自分の思い込みで移動したり、移動途中で他の集団の中に紛れ込んだりするため、どこへいったらいいかわからず、迷うことがある。そして教師が探し、正しい場所へ連れて行くが、本人はなにがいけなかったのか理解できずに戸惑うことがある。また、家族と出掛けた時にも一人で勝手に移動をし、迷子になることが度々ある。
- 自分の要求を表出することが少なく、したいことがあった時には突発的に行動することが多い。

・活動の具体的内容

- 言葉と実物を繋げて語彙を増やす。
- どこで・だれと・何をしたなど、写真を見ながら文章にする。



「カメラ絵日記」

上段には撮影した、生徒が活動している写真を入れ、下段には言葉を入力することができる。入力は生徒がローマ字入力が可能のため、ローマ字入力で行う。

- 「いつ・どこで・だれと・何をした」など質問に答えて、コミュニケーションの幅を広げる。



「メッセージ」

メッセージを使って、やりとりを行う。

文章のやり取りを視覚的に提示し、確認することができる。

・対象生徒の事後の変化

- 写真を提示して、語彙を増やす学習を繰り返すことで、自分が行っている行動に関する言葉の理解をすることができた。はじめは、写真を提示して「何をしている？」と尋ねても答えることができない言葉が多かった。そのような時には、教師が「〇〇をしているんだよ」と言葉を教えて理解できるように教えていった。はじめは、生徒自身が活動している写真を撮影したものを印刷して提示し、答えるようにしていたが、ipadを使用するようになってからは、撮影したものをすぐに提示できるため、動きと言葉が繋がりやすくなったようである。



○カメラ絵日記のアプリを使って、自分が活動している写真に対しての日記を書く活動を繰り返したことで、「どこで・だれと・何をしている」などの言葉の意味を理解することができるようになった。

生徒は【昨日・今日】などの概念はあり、「昨日は何をしましたか?」という質問に対して、行動と言葉が繋がっていれば答えることができるが、【今】という概念はなく、「今何をしていますか?」という質問に対して答えることができなかったが、活動している時に「今何をしています?」と尋ねた後、絵日記アプリの写真を指さしながら「〇〇くん今何しているの?」と尋ね、「勉強をしている」と答えが返ってくると、「そうだよ!! 〇〇くん、今勉強している」と伝えることを繰り返していくうちに、【今】という概念を理解し、「今何をしています?」という質問に答えることができるようになってきた。



「だれと」の言葉に対しては、「だれ?」と尋ねて名前を答えることができても、「だれと?」という言葉が何について問われているか分からず、答えることができなかった。そのため、人と一緒に活動している写真を提示し、【だれ】を強調して質問し、「尋ねているのは人について」ということを意識させるようにした。繰り返すことで、「だれ＝一緒に活動している人なんだ」という事を理解することができた。

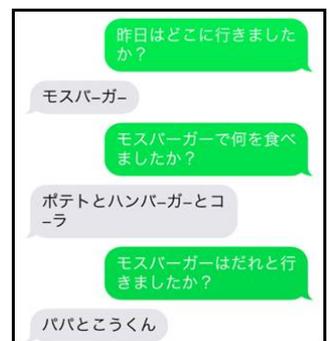


○メッセージを使う活動を通して、絵日記アプリで学習した「どこで・だれと・何をした」という内容を活用してやりとりができるようになってきている。今はまだ教師からの「昨日はどこに行きましたか?」「だれと行きましたか?」「何を食べましたか?」などの質問に答えるのみだが、質問された内容を理解して、正しい答えを返すことができるようになってきた。



授業の中でメッセージでのやり取りを行った際には、携帯の画面を提示して交互に入力した内容を読み合い、口頭でやり取りしている体験を行った。その時には生徒は「答えることができた」という嬉しさからか、ニコニコと笑顔を見せる場面があった。また、家族で出かけて、生徒が自分勝手にどこかへ行った時、保護者のメッセージでの「どこにいますか?」という問いかけに対しても「トイレです」と自分の居場所を正確に伝えることができ、保護者の方が生徒の居場所を確認することができたという出来事があった。

そして、視覚的にやり取りを確認できるメッセージでの学習を繰り返すことで、口頭で簡単な質問をしても、答えることができるようになってきている。



【報告者の気づきとエビデンス】

①【語彙を増やす・自分が何をしたかというを理解する】

生徒が活動している写真を撮影後、すぐに提示し、口頭での質問に答えさせることで「どこで・だれと・なにをした」という質問の意味や言葉の意味を理解することにつながり、語彙も増えてきているのではないか。

【どこで？】

①「今どこにいる？」⇒ ④「・・・」⇒ ①「教室にいるよ」

①「今どこにいる？」⇒ ④「教室」⇒ ①「OK！！教室」というような口頭でのやりとりや、絵日記アプリで日記を書かせる際に、写真を見せて「ここどこ？」と尋ねることから「どこ＝場所」ということを理解することができた。

また、写真と場所の名前を一致させることから、口頭やメッセージで質問しても答えたり、指示されたところへ自分で行ったりすることができる場所が増えてきた。

【だれと？】

絵日記アプリで日記を書く際に、段階を踏んで指導していった。

《第1段階》

(写真を提示して) ①「誰と走ったの？」⇒④「……」

(一緒に走っている人を指して) ①「誰？」⇒ ④「〇〇先生」⇒ ①「〇〇先生と走ったんだよ！！」

(再度同じ写真を見せながら) ①「誰と走ったの？」⇒ ④「〇〇先生」

…と教師が答えることばについて写真を指して支援することで、何についてこたえなければならぬかを理解して答えることができた。

《第2段階》

(第1段階で答えた教師、友だちと一緒に活動している写真を提示して)

①「誰とダンスしたの？」⇒④「〇〇先生」

①「誰とそうじしたの？」⇒④「〇〇くん」

…第1段階で答えることができた、教師と一緒に活動している別の場面での写真を提示すると、すぐに間違えることなく答えることができた。また、友だちと一緒に活動している写真を提示しても間違えずに答えることができた。

《第3段階》

写真を提示することなく、メッセージアプリのやりとりの中で「誰と～した？」と質問した。写真を見なくても一緒に活動した人の名前を正しく答えることができた。

【なにをした？】

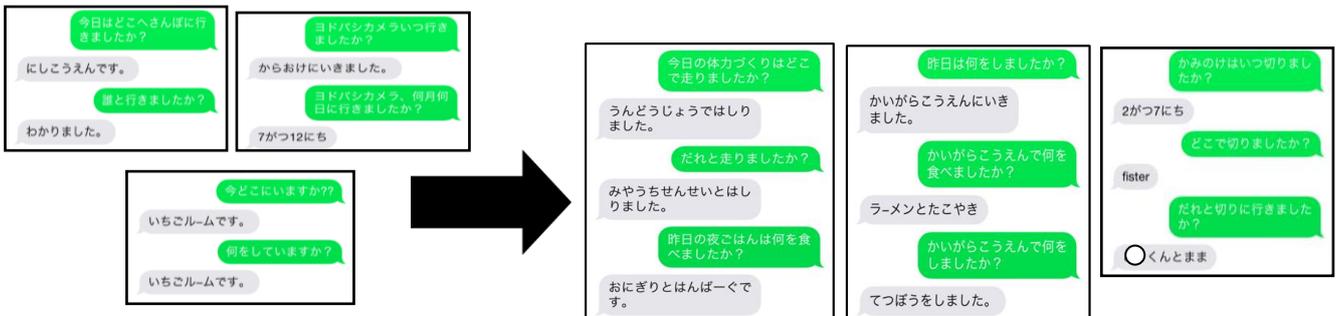
生徒自身が活動している写真を提示することで動作とことばが繋がり、語彙が少しずつ増えてきた。

分からない言葉についてはその場で教えて学習している。

②【メッセージでのやりとり】

「いつ・どこで・だれと・なにをした」の学習を活用して、メッセージでやりとりをすることで、文章をきちんと返すことができるようになり、やりとりの幅が広がってきた。

質問した内容を理解し、きちんと答えることが少しずつできるようになり、やりとりの幅が広がってきている。生徒は視覚優位なため、学習はメッセージを使って行っているが、口頭で休日の出来事や食べたものなどについて「どこに行った?」「誰と行った?」「何を食べた?」など短く問いかけても「聞かれていること・答えなければならないこと」の理解が、言葉の意味の学習で深まったことから、オウム返しではなく、メッセージと同じように口頭でも答えることができるようになってきている。



学習中は対面でのメッセージのやり取りだが、離れた場面でも、生徒は問われた内容を理解して正しい答えを返すことができるようになってきている。

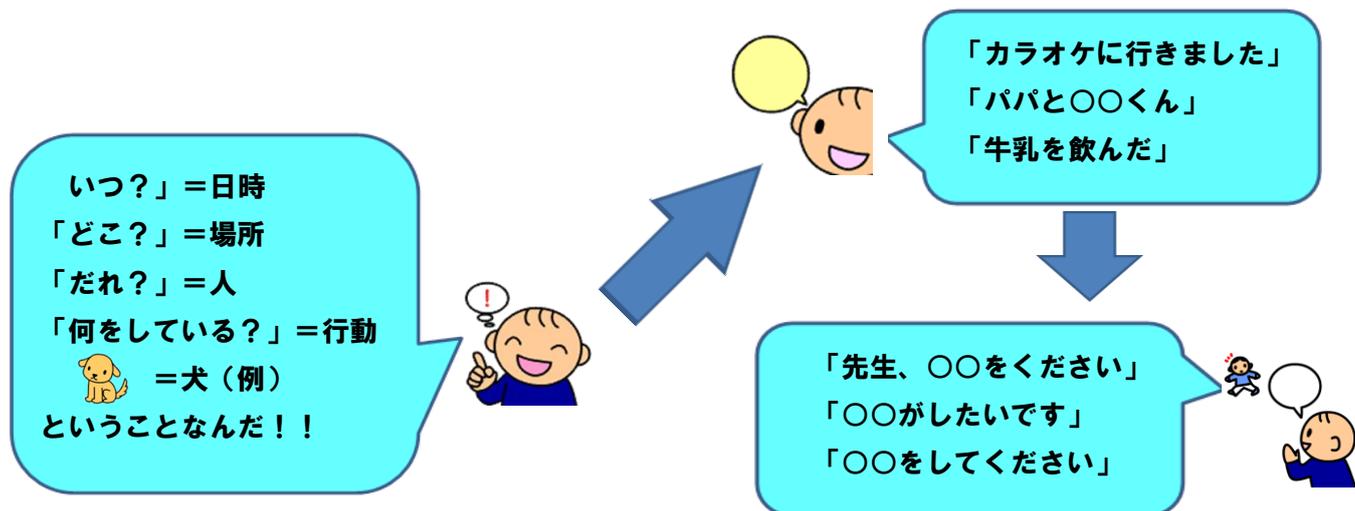


「メッセージでのやり取りを活用して、離れた場所に居た時に投げかけに応じることができた。」

校内で集団から離れて、どこかへ行った時に、「(例)体育館に行きます」と指示を出すと、メッセージを確認して体育館に来ることができたり、「〇〇くん(本人)の水筒を△△先生に渡してください」などとメッセージで送ると確認して行動に移すことができたりした。

また、休日家族で出かけ、生徒がどこかへ行ってしまった時に、メールで「駐車場に行きます」と指示をすると、メッセージを確認して駐車場に来るなど、学校外の場面でも活用することができた。

【今後の見通し】



○現在は、言葉の意味を少しずつ理解して、質問に対して答えることができるようになってきている。今後は発信して伝える喜びや楽しみを味わうことを通して、自分から周りへ要求などを発信することができるようにしたい。

○今後も生徒の語彙を増やしていき、やり取りを行う中でコミュニケーションの幅を広げていきたい。